

目次

令和元年度青臨技通常総会・情報交換会報告	- 1 -
第46回青森県医学検査学会を終えて	青森県立中央病院 佐々木久 - 1 -
新監事紹介	- 3 -
平成31年度青臨技感染制御部門 VRE 感染対策情報共有会報告	三沢市立三沢病院 石井章子 - 3 -
令和元年度青臨技病理検査部門・青森県細胞検査士会研修会報告	弘前市立病院 及川颯太 - 4 -

令和元年度青臨技通常総会・情報交換会報告

平成31年6月15日（土）ラ・プラス青い森に於いて、平成31年度定時総会が行われました。定時総会では議長に西谷浩樹（公立七戸病院）、堀内弘子（八戸市立市民病院）が選出されました。

齋藤会長の挨拶より始まり、資格審査報告、議事運営提案が行われ、議事が始まりました。

議案審議では第一号議案として平成30年度事業経過報告、第二号議案として平成30年度決算報告、平成30年度監査報告が執行部より説明されました。また、第三号議案として監事後任者選任について、第四号議案として青臨技会費を7000円に値下げすることについて説明があり、異議なく承認されました。

総会の議事録署名人として、佐藤めぐみ（弘前大学医学部附属病院）、鳴海一訓（かなぎ病院）を選出して終了となりました。

第46回青森県医学検査学会を終えて

第46回青森県医学検査学会
 会長
 青森県立中央病院 佐々木 久

令和元年6月16日（日）、第46回青森県医学検査学会が青森市、ラ・プラス青い森で開催されました。今回は年号が平成から令和に変わり最初の記念すべき学会となりました。また、今までの青臨技主体の学会から支部主体の学会へシフトするということで東青支部一丸となって開催へと臨みました。学会プログラムは、午前に一般演題、午後にランチオンセミナー、協同組合タッケン理事長の川嶋勝美氏を迎えての招待講演、青森県内の若手技師による特別講演という内容で開催されました。

一般演題は各分野から24題と多く、若手技師や学生の活躍が目立ちました。演題数の増加により、2会場に分ける案も出ましたが、会場の出入りを少なく、落ち着いて演題を聞けるようにと時間調整をして1会場で発表する形式にしました。演者や座長、会員の皆様にはスムーズな運営にご協力していただきありがとうございます。

ました。

ランチョンセミナーは「採血業務における基本的な注意点ー採血管の取り扱いと臨床検査への影響ー」と題し、積水メディカル株式会社 国内営業部 東北営業所の野上里恵先生が講演されました。「検査の始まりは採血である」と言われるように、採血管の取扱いや採血手技が適切でないと正確な検査値を報告することはできません。「採血直後の転倒混和」をはじめとした、採血・採血管の取扱いを十分に理解しておくことが、正確な検査を迅速に実施、報告するうえで重要と仰っておりました。また、新しい標準採血法ガイドライン(GP4-A3)の改訂ポイントについても教えていただきました。

招待講演は、協同組合タッケン理事長の川嶋勝美氏を講師に迎え、「すい臓がんステージIVを体験した男の独り言」と題して講演していただきました。川嶋勝美氏は「すい臓がんステージIVから還ってきた男」の著者であり、病気になる前の生活からすい臓癌を克服するまでの自身の体験談を赤裸々に話してくれました。患者側からの体験や不安な気持ちを拝聴することにより、我々検査する側の人間が患者の不安な気持ちに寄り添えるようになるのではないかとの思いで講演を依頼した次第であります。川嶋勝美氏は一般の方々を対象に講演活動をしており、臨床検査技師である我々医療従事者の前で講演していいものかと躊躇しておられましたが、そんなことを感じさせない話ぶりで、すばらしい講演でした。

特別講演の県内若手技師による「技師たちはどういきるか〜若手とベテランに聞いた検査室のこれから 青森編〜」は、平成 30 年度日臨技北日本支部医学検査学会(第 7 回)の若手実行委員が企画、発表したものですが、青臨技副会長の石山雅大技師が「北日本支部医学検査学会の一企画で終わらせるのはもったいない。是非青臨技の会員の皆様にも広く見てもらいたい。」との要望で実現した講演です。若手技師の方々には内容を「青森編」としてさらにデータを加え再編集して発表してもらいました。この講演により若手技師とベテラン技師がお互いの考えをより理解し、生き生きと業務に取り組んでいくきっかけになっていくと思われました。若手技師の皆様には快く引き受けていただきありがとうございました。

本学会や前日の情報交換会では、非常に多くの会員や賛助会員の方々に参加していただき、無事盛会裏に終わることができました。皆様にご協力いただき本当にありがとうございました。

最後に、前日の総会をはじめ精度管理指導講習会、情報交換会や学会にご指導、ご協力いただいた青臨技理事、会員の皆様そして東青支部の理事並びに実行委員、部門員の皆様に心から感謝申し上げます。





招待講演

協同組合タッケン 理事長 川嶋 勝美 氏

新監事紹介



新監事

坂牛 省二 (平内中央病院)

平成 31 年度青臨技感染制御部門 VRE 感染対策情報共有会報告

三沢市立三沢病院 石井 章子

昨年からバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）が青森県内で発生しています。VRE について 4 名の先生方からご講演をいただきました。

まず、講演 1 「バンコマイシン耐性の腸球菌感染症について」原田邦弘先生より VRE の届出基準や我が国における VRE の分離状況、VRE の保菌者・感染症発生時の対応について説明がありました。特に保健衛生課と院内感染対策の相互連携の重要性、VRE の発生が保菌であっても 1 例目からアウトブレイクに準じた対策を取ることが重要だとの話には、気が引き締まる思いをしました。

講演 2 「VRE の院内感染を経験して」金澤雄大先生より大変貴重な報告がありました。院内での VRE の発生状況や VRE の感度を高めるスクリーニング方法など、院内感染を実際に経験された貴重な話を聞くことができ、非常に参考になりました。選択培地の培養時間、血液寒天培地の必要性、CD トキシン検体に対する VRE 検査の必要性など普段疑問に思っていたことを今後活かしていきたいと思います。また、アウトブレイクした場合、外部支援は積極的に頼る必要があること、院内感染のリスクを理解してもらうには時間がかかる

ため、普段から意識を高める働きかけが重要であること、ICN との連携が重要なことなど、参考になる事が多くありました。

講演3「VREの基礎と環境保健センターにおける解析について」高橋洋平先生から病院より搬入された検体がどのように解析されているかの説明がありました。PCR法による菌の確認、ディスク拡散法によるVCM耐性型の推定、PCR法によるVan遺伝子の検出、パルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)による型別分析など、詳細な解析がなされていることを知ることができました。

講演4「青森県における多施設アウトブレイクと今後の対応について」萱場先生よりお話がありました。まず、青森県の昨年からのVRE拡散状況と現在は全体的には終息に向かいつつある状況について説明がありました。しかし、これまでVREを経験した他県の施設では終息するまでにかなりの時間がかかっていること、VRE陽性者が1人見つかり、その後更に多くの陽性者が見つかると言われていることなどの説明があり、依然気を抜けない状況は続いていると感じました。引き続き今後の対策として各施設での努力継続、情報共有、早期のVRE陽性者の発見、地域医療圏で共同したVREモニタリング、経緯を記録に残すことが必要だとのことでした。

今回の研修会に参加してVREについて大変勉強になりました。今回勉強したことを自施設に持ち帰りICN等に報告をして今後の対策に活かしたいと思います。



弘前大学大学院医学系研究科
臨床検査医学講座 教授 萱場広之先生



青森県環境保健センター微生物部
主任研究員 高橋洋平先生

令和元年度青臨技病理検査部門・青森県細胞検査士会研修会報告

弘前市立病院 及川 颯太

令和元年11月2日に八戸赤十字病院3F大会議室で令和元年度青臨技病理検査部門・青森県細胞検査士会研修会が開催されました。

3つの講演があり、1つ目は青森労災病院の天野暢技師および八戸市立市民病院の須藤安史技師による「平成30年度青臨技病理・細胞診精度管理報告」が行われました。2つ目は「伝えたい病理技術 脱脂・脱灰・薄切・免疫染色」と題して、岩手医科大学附属病院の山田範幸先生に、普段の業務で行うことが多い脱脂、脱灰、薄切、免疫染色といった作業のポイントやコツについて詳しくご講演いただきました。3つ目は「一希少がんの細胞診」と題して、千葉県がんセンターの有田茂実先生によるスライド鏡検実習が行われました。症例は6例あり、骨・軟部領域や脳・中枢神経領域など普段経験することがほとんどない希少な症例を経験することができました。

今後、この研修会で学んだ知識を職場で応用できればと思います。貴重な講演を拝聴できました。ありがとうございました。



千葉県がんセンター
臨床検査部 有田茂実先生



岩手医科大学付属病院
病理診断科 山田範幸先生

